

高津区おはなしアーカイブ

- 長瀬 律子 (ながせ りつこ)さん
昭和5年生まれ 88歳
川崎市高津区坂戸在住



◆ご家族のお話を

生まれは、川崎市幸区中幸町です。実家は、今のラゾーナのそばの神社のあたりで、左官屋を営んでました。家が風呂屋の前だったので、風呂屋に行くときは、気軽にかまどの方から出入りしていました。

父は、親方でしたから厳しい人だったけど、一番下の女の子だった私だけは可愛がってくれました。でも60歳で亡くなってしまいました。反対に、母は、我がままだったけど、83歳まで生きたんですよ。

兄弟は上に兄が2人、姉が3人、私の下に弟が1人の全部で7人です。上の兄2人は戦死、下の弟は交通事故死で、今は姉た

ちも亡くなり、まるで私は一人っ子のようになってしまいました。

忘れられないのが、私が女学校1年のときの長兄の戦死です。12歳も年上で私のことを兄弟で一番可愛がってくれていたのに、訃報を聞いたときは、ショックで・・・。

横浜駅に遺骨を取りに行ったときは、わんわん泣いて周りの人に止められたほどでした。

大東亜戦争前だったのですが、近所中で戦死はうちが初めてでした。物資の無い時代でしたが、きちんと葬式ができたし、川崎大師が近いせいか、兄の告別式に海苔を配ることができました。

◆子ども時代の様子は

小学校は、幸小学校です。戦争中、服は配給でね、制服が焼けちゃってるから、緑の生地を貰って自分で手縫いですよ。ほんと、よくもまあ、自分が作ったと思います。その頃、すでに2人の姉たちは、東芝工場で働いていたり、看護師として家を出ていましたから、両親と下の姉と弟と私の5人家族でした。私と弟は、鶏やウサギ、鳩や犬、猫など色々な動物を縁の下に内緒で飼っていました。親に見つかるとうちが「自分たちが食べるのにも苦労してるのに、エサなんて！」と怒られるからね。弟と一緒に縁の下で動物達と寝ちゃったこともあったからね。私は動物好きでね、団地に越すまでずっと、何かしら動物は飼ってましたねえ。

その頃、うちの食事があまり困らなかったのは、父が左官屋の親方だったから、若い衆の実家から米が届いたりしていたんですよ。ありがたかったねえ。

買い出しにも行きましたよ。立川駅で乗り換えて町田まで行くんだけど、帰りに警察に見つかって没収されるときは、悔しかったねえ。

戦争中に焼け出されたことも3回ありました。必死で走るんだけど、1回目の爆弾のときは幸病院まで、2回目は下駄屋に、3回目は一本松のところまで、逃げ切りました。私は、小学校の時から足が速くてね、100m走ではいつも1等賞でしたよ。

◆どんな青春時代を

「これからの日本は学歴社会だ」と自分で思っていましたから、父に「服もいらなし、3度の飯もいらなしから、とにかく学校に行かせてください。1,100円の月謝だけ、払ってください」と一生懸命に頼みました。その甲斐あってか、私は大田区糎谷にある蒲田女学校に入学できました。昔は電車もバスも無いから、自宅から糎谷まで毎日歩いて登校しました。皆、仲良くってね、ついこの間まで同窓会をしてました。競輪の選手なんかもいたんですよ。でも、皆、死んじゃった。皆、良い人たちが変わらなかったねえ・・・。

女学校を出た後は、昭和21年に帝国銀行に就職しました。当時は誘拐事件が多く

てね、家にいた若い衆が私の帰り時間に合わせて迎えに来てくれました。銀行勤めは私が結婚する昭和28年まで7年間続きました。そして結婚後は、つてがあつて高津区役所の年金課に勤務しました。年金伝票を2,000枚持って、蟹ヶ谷や千年、二子など担当地区に年金の説明に行きました。今でもその人たちに会うと「あの時は、ありがとうございます」と感謝されます。

また、町会の運動会では仮装行列で相撲取りになったり、女子プロレスラーになったりして、いつも1等賞でしたよ(笑)。区役所は60歳の定年後も嘱託として5年、結局65歳まで勤め上げました。

◆ご主人との馴れ初めを

家がお互い近かったし、幼馴染です。夫にダンスを教えてもらったのがきっかけですね。夫の実家は、乾物屋でした。川崎大師でお店を営んでいて、この店は今でも大師さんにあります。

夫との結婚は、うちの両親はあまり賛成ではなかったの。きっと私が苦勞するだろうと思ったのでしょう。やはり、区役所に勤務しながらも、店の手伝いや夫の妹の子守りなどもさせられましたからねえ。

夫は昭和20年に家業を辞めて、東急電鉄の司令室に勤務しました。定年まで勤め上げ、40年間、この団地の自治会長などをしていましたが、残念ながら2年前に亡

くなりました。ダンスが上手でハイカラな人でした。

◆市営住宅建設の変遷を

結婚して長女を出産した昭和30年に、この団地、坂戸市営住宅に申し込み、引越しました。入居して約60年ですから、多分一番古い住人ですね。

この市営住宅建設の発端は、農家の人が、畑だったこの土地を坪450円で市に売り、平屋の45坪の住宅が十数棟建ったのです。一軒長屋をA住宅、二軒長屋をB住宅と言って、間取りは6畳と4畳と板の間の廊下、風呂場です。とても住みやすかったですよ。住人の子どもたちも皆、仲良しで一緒に久本小学校に通っていました。そのうち坂戸小学校もできましたが、うちの子はずっと久本小学校でした。

昭和60年頃から住宅の建て替え工事が始まりました。平屋住宅も全て壊し、現在のような4階建て・5階建ての市営住宅となりました。建設現場には、私の弟も携わっていました。1・2号棟が昭和58年に、3・4号棟が昭和60年に出来上がり、合わせて80所帯が入居しました。棟の奥は、大家族用にも作られていました。

建て替え後に「何号室に入居するか」は、抽選ではなく、元の長屋に住んでいた古い住人に優先権がありました。やはり、その人たちは下の1、2階に越し、新住人は上の階でしたね。うちは夫が自治会長を担っ

ていたので、自由に部屋を選べずに、この3階に越しました。

現在は、1号棟から7号棟まで230所帯が住んでいます。そのうち、古い住人は32所帯です。多い年代は、親と同居している4、50歳代でしょうか。私より年上の90歳の方が2人いらっしゃいます。建設当時は、将来、川崎市が市営住宅を払い下げてくれることが約束されていたのに、結局は果たされませんでした。

◆当時の風景は

昔は近くに手頃な商店街があったのです。肉屋や魚屋、八百屋、薬屋、洗濯屋や燃料屋など一通りはあったし、食堂なんかもあったのですよ。本当に身近にあって便利でしたよ。その後、スーパーのマルエツができて、商店街が寂れてしまいました。スーパーに負けてしまったような感じでしたが、今やそのスーパーも無く、その辺はすべてアパートが建っています。

また、昭和40年から50年頃は駅までの赤土が酷くて、雨が降るともう道がグチャグチャでした。雨の朝は、長靴を履いた夫を駅まで送っていき、駅で脱いだ長靴を家まで持ち帰っていました。それくらい、大変な道でしたね。

◆祭りの様子は

昔も今もずっと坂戸神社です。小さな神社ですが、やぐらがあるし、大晦日や正月のどんど焼きなどは盛り上がりますよ。坂戸第1町会と第2町会が氏子です。この団地の自治会としての夏祭りは、高津区民祭のお神輿パレードに参加したり、坂戸公園で盆踊りを開いたりします。カキ氷や綿あめの機械も自治会が持ってますから、かなり賑わいます。ある意味、町内会よりもこの団地の夏祭りは盛んかもしれません。

◆今、振り返って思うことは

昭和30年くらいまでは、池貝鉄工所の土地で3,000坪の池が団地の近くにありましたが、ほとんどを埋め立てて、富士通の倉庫やボーリング場ができたの。その富士通の倉庫が今の川崎フロンターレの事務所だもんね。この辺にKSP(かながわサイエンスパーク)ができたことで、だいぶ地域が発達したと思います。

あっという間の60年ですね。私はここで夫と2人の子どもを育てました。もうその子どもたちも親になり孫が5人で、ひ孫もいます。今や、古い住人は少なくなるし、新しい人たちは若いから付き合いは無く、なんだか寂しいですね。何室か空いてるみたいだし。

もうこの年齢になると、3階までの階段がキツくてねえ。エレベーターがあったらなあと思うけど、新設するのは難しいらし

いの。1階は便利かもしれないけど、やはりすぐ窓から外が見えてしまうのが嫌でね。

この市営住宅での暮らしは、友だちに恵まれたと思っています。感謝です。現在は1人暮らしですが、食事は自分で作っています。ヘルパーさんが買い物をしてくれるし、娘も訪ねてきてくれるので助かっています。夏は窓から遠くに見える花火が実に綺麗よ。

(平成29年12月20日取材)